

障害福祉に関するアンケート調査について

資料 1

1 前回審議会で確認した事項について

(1) 調査の概要

①実施時期及び配付・回答方法

No.	項目	内容
1	実施時期	令和 7 年 8 月
2	配付方法	郵送
3	回答方法	郵送及び電子申請

②調査対象等

No.	調査対象	今回調査		母数	割合	調査票	
		手法	抽出数	(概数)	%	種別	設問
1	身体障害者	標本	800	10,000	8	I	57
2	知的障害者	標本	800	3,000	27		
3	精神障害者	標本	800	4,000	20		
4	難病患者	標本	800	2,700	30		
5	特別支援学校高等部 3 年生	全数	50	50	100	II	46
6	障害者支援施設利用者	全数	300	300	100	III	56
7	グループホーム利用者	全数	500	500	100		
8	障害のない市民	標本	800	350,000	0.2	IV	12
	合計		4,850			4 種	

2 本日まで審議いただきたいポイントについて

今回のアンケート調査は、障害者等の生活上の課題やニーズ、状況の変化を把握するため実施するものです。調査項目は国が示す案を参考に作成した前回調査を踏襲しています。

しかしながら、設問数が多く、回答者にとって負担が大きいため、調査項目を統合するなどして、設問数を削減したいと考えています。

(1) 調査項目について

大項目・中項目の統合・削除・修正等についてご審議をお願いします。

(2) 選択肢について

選択肢の統合・削除・修正等についてご意見ください。

本日まで審議いただいた内容及びご意見を踏まえ、次回審議会で調査票の素案をお示しさせていただきます。

3 障害者支援計画の成果指標との関係

現計画では、以下のとおり成果指標を設けています。

太枠の成果指標については、当該アンケート調査により数値を把握します。

4 成果指標

現状値…令和4年度 目標値…令和8年度

計画の達成度を測るため、計画の総合的な成果指標と基本目標ごとの成果指標を設定します。

計画の総合的な成果指標	現状値	目標値	方向性
川越市の障害者施策の満足度(%)	33.9	42.0	➡

※上記は、障害のある人を対象とした「川越市障害者福祉に関するアンケート調査」で「川越市の障害者施策への満足度」について「満足している」または「少し満足している」と答えた障害のある人の割合。

基本目標1 誰もが安全・安心に暮らせるまち

No.	成果指標	現状値	目標値	方向性
1	市民の障害者差別解消法の認知度(%)	-	30.0	➡
2	障害のある人が差別や偏見を感じたことがある割合(%)	42.0	30.0	➡
3	個別避難計画作成数(件)	468	600	➡
4	福祉避難所設置数(箇所)	29	32	➡
5	健康管理や医療について困ったり不便に思うことが「特にない」障害のある人の割合(%)	40.5	50.0	➡

基本目標2 自立を尊重し、総合的な支援が受けられるまち

No.	成果指標	現状値	目標値	方向性
1	重症心身障害児を主たる対象とする事業所数(箇所)	2	3	➡
2	特別支援学級設置率(%)	83.3	100.0	➡
3	保護者アンケートで「入学させて(かなり)よかった」と答えた割合(%)	95.8	100.0	➡
4	市職員における障害者雇用率(%)	2.37	3.00	➡
5	一般就労への移行者数(人/年)	21	29	➡

基本目標3 一人ひとりに配慮した支援が受けられるまち

No.	成果指標	現状値	目標値	方向性
1	施設入所者の地域移行希望割合(%)	6.8	15.0	➡
2	地域生活移行者数(人) ※計画期間中の累計人数	0	18	➡
3	重度障害者の市内グループホーム利用者数(人/年)	121	180	➡
4	川越市総合福祉センターの障害のある人の延べ利用者数(人/年)	9,083	20,000	➡
5	外出の際に困っていることが「特にない」障害のある人の割合(%)	30.6	35.0	➡

※「川越市障害者支援計画（令和6年3月策定）」p51 から引用

4 前回審議会（令和6年11月18日）でいただいた御意見

No.	委員名	意見内容	資料2 反映箇所
1	大島委員	施設での生活についての設問項目はあるが、 <u>家庭での過ごし方については聞かなくていいのか。</u>	8 ページ 206 行目
2	大島委員	調査票別設問項目について、「卒業後の日中の過ごし方」の中に、 <u>進路希望がわかるような設問を入れてほしい。</u> 卒業後、就職を希望するのか、専門学校や学校に行きたいのかということが、明らかになるといいと思う。	9 ページ 220 行目
3	峯島委員	川越特別支援学校だが、 <u>就労について、卒業後の進路希望を知りたいと考えている。</u>	
4	峯島委員	本校では、高等部卒業後は就職という進路を前提に教育課程を組んでいる。 人生100年時代とささやかれてる中で、 <u>18歳で社会に出て働くのは早すぎる。</u> 就職希望の生徒への指導は一生懸命やるが、 <u>卒業してからも学ぶ期間があった方が良く思う。</u> 今回、「障害のない市民」もアンケート調査の対象となるので、 <u>社会全体の考えを知ることができる</u> とよい。	「卒業後の進路」については、本人の意向が重要であると考えているため、「障害のない市民」に対してその考えを問う設問は設けておりません。
5	野沢委員	（障害者支援施設・グループホーム利用者の調査票に「災害時の支援等について」の設問がないことに対し）施設で対応できるものか、現状どうなのかという不安がある。夜間支援員がいないグループホームも多く、そのような場合、夜間に起こった災害への対応は難しいと思う。以前もアンケートなどで、グループホーム利用者も地域の避難訓練などに参加したいという要望が出ていると思う。 そのような要望もあるので、 <u>今回の調査票Ⅲに、災害時の支援もぜひ項目として入れてほしい。</u>	19 ページ 478 行目 20 ページ 502 行目

